

福岡城に天守閣を
— 城のある都市復活!! —

お城だより

2009年7月

No.22



福岡城西三の丸、御下屋敷の表と裏 (現在は、舞鶴中学校と舞鶴公園西側広場) (写真提供:しんわ資料室)

「歴史資源を活かしたまちづくり」

福岡市中央区長

西平 博利



鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会におかれましては、観桜の宴、観月の宴をはじめ、福岡歴史観光市民大学や博多どんたく福岡城演舞台の開催など福岡城にちなんだ様々な取り組みを通して、地域の活性化にご尽力賜り誠にありがとうございます。

近年、歴史遺産、文化、食など地域資源を活かしたまちづくりが盛んになってきています。中央区はにぎわいの最先端を行く天神地区だけではなく、鴻臚館跡や福岡城跡など多くの歴史資源に恵まれており、これらを地域の活性化に活用していくことが重要であると考えています。

地域の歴史に対する市民の関心もたいへん高く、区市民センターで実施している「福岡地域史講座」には定員を大きく上回る応募があります。また、貴会をはじめ、郷土史のほせもん倶楽部や福岡歴史探訪ガイド、福岡商工会議所などの様々な地域団体が中央区の地域紹介・歴史観光ガイドを活発に繰り広げられています。

二〇一一年には九州新幹線鹿児島ルートが全線開業いたします。福岡の魅力を発信する大きなチャンスが到来する訳です。中央区としては、貴会をはじめとした地域団体と協力しながら、市民が地元への愛着を深め、また、観光客の回遊性を高める取り組みを推進していくことにより、九州はもとより広く海外からの観光客に約二〇〇〇年におよぶアジアとの交流の歴史に触れていただきたいと思います。

NPO 法人 福岡城市民の会 第5回総会開かれる

平成 21 年 6 月 8 日開催の第 5 回通常総会及び第 8 回理事会に於いて下記の事項が承認されました。

1. 平成 20 年度事業報告及び収支決算

【平成 20 年度事業報告書】

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで

1 事業実施の方針

鴻臚館・福岡城を生かした地域活性化とその復元を目指して、下記活動を実施することによって鴻臚館・福岡城に対する市民の認識を更に新たにしました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額(千円)
イベント開催	観桜の宴	3月	福岡城跡	30人	市民 200人	389
イベント開催	どんたく舞台	5月	福岡城跡	50人	市民 6,800人	6,207
イベント開催	福岡城歴史展	1月	観音堂ホール	3人	市民 300人	0
イベント開催	観月の宴	9月	福岡城跡	50人	市民 4,000人	5,869
研究・啓発	史跡探訪バスツアー	8月	福岡県内	3人×8回	市民 40人×8回	0
研究・啓発	観光案内所	7月～11月	はみりプラザ	5人×22回	市民 90人×22回	595
受託事業	古代官道	8月～3月	福岡博物館	30人	市民 2,000人	2,731
機関紙発行	機関紙発行	4回	事務所	5人×4回	市民 3,000人×4回	803

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
基金活動事業	個人・団体への基金活動	随時	随所	10人	26

【平成 20 年度収益事業会計収支計算書】

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで
NPO 法人 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

科 目	金額(単位:円)
I 経常収入の部	
1 事業収入	
イベント開催事業	
観桜の宴	332,000
どんたく舞台	5,941,659
観月の宴	6,203,429
西日本新聞旅行企画	200,000
研究・啓発事業	
市民大学	1,019,000
経常収入合計	13,696,088
II 経常支出の部	
1 事業費	
イベント開催事業	
観桜の宴	389,329
どんたく舞台	6,206,316
観月の宴	5,868,855
研究・啓発事業	
市民大学	595,228
2 管理費	1,172,618
経常支出合計	14,232,346
III その他資金収入の部	
1 雑収入	23,906
その他資金収入合計	23,906
当期収支差額	-512,352
前期繰越収支差額	-2,305,291
次期繰越収支差額	-2,817,643

1. 平成 21 年度事業計画及び収支予算

【平成 21 年度事業報告書】

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

1 事業実施の方針

鴻臚館・福岡城を生かした地域活性化とその復元を目指して、イベント開催や研究・啓発事業を積極的に行うとともに、関係諸団体との連携を一層活発化し、鴻臚館・福岡城に対する市民の認識を更に新たにしていく

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出見込額(千円)
イベント開催	観桜の宴	4月	福岡城跡	30人	市民 200人	50
イベント開催	どんたく舞台	5月	福岡城跡	50人	市民 6,800人	6,200
イベント開催	観月の宴	9月	福岡城跡	50人	市民 4,000人	6,000
研究・啓発	史跡探訪バスツアー	8月	福岡県内	3人×8回	市民 40人×8回	0
研究・啓発	観光案内所	7月～11月	はみりプラザ	5人×22回	市民 90人×22回	1,000
受託事業	古代官道	8月～3月	福岡県内	30人	市民 2,000人	2,500
受託事業	観光案内所	3月～	福岡城内	30人	不明	3,600
機関紙発行	機関紙発行	4回	事務所	5人×4回	市民 3,000人×4回	1,000

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	支出見込額(千円)
基金活動事業	個人・団体への基金活動	随時	随所	10人	10

【平成 21 年度特定非営利活動に係る

事業会計収支予算書】

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで
NPO 法人 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

科 目	金額(単位:円)
I 経常収入の部	
1 会費収入	2,900,000
2 事業収入	
観桜の宴	50,000
どんたく舞台	6,500,000
観月の宴	6,000,000
観光歴史大学	1,000,000
史跡探訪バスツアー	240,000
古代官道(受託事業)	2,500,000
観光案内所(受託事業)	3,600,000
機関紙発行	0
3 その他事業会計からの繰入	100,000
経常収入合計	22,890,000
II 経常支出の部	
1 事業費	
観桜の宴	480,000
どんたく舞台	6,200,000
観月の宴	6,000,000
観光歴史大学	1,000,000
史跡探訪バスツアー	240,000
古代官道(受託事業)	2,500,000
観光案内所(受託事業)	3,600,000
機関紙発行	1,000,000
2 管理費	1,770,000
3 予備費	100,000
経常支出合計	22,890,000
経常収支差額	0
III その他資金収入の部	
その他資金収入合計	0
IV その他資金支出の部	
その他資金支出合計	0
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	3,580,041
次期繰越収支差額	3,580,041

3. 役員選任の件

本総会集結の時をもって、現在役員全員が任期満了となりますので、改めて役員の選任をお願いするものであります。

平成 21 年度役員候補者は次のとおりであります。

役 名	氏 名	報酬の有無	事 項
理 事	石井 幸孝	無	再 任
理 事	中島 敏行	無	再 任
理 事	吉谷 正人	無	再 任
理 事	稲貝大三郎	無	再 任
理 事	緒方世喜子	無	再 任
理 事	岡部定一郎	無	再 任
理 事	各務 章	無	再 任
理 事	高倉 清子	無	再 任
理 事	西 憲一郎	無	再 任
監 事	仁田 辰治	無	再 任

顧問 麻生 渡 福岡県知事

顧問 吉田 宏 福岡市長

顧問 河部 浩幸 福岡商工会議所会頭

顧問 黒田 長高 黒田家(16代)

※退任 理事 井口 雄哉

※死去 顧問 黒田 長久
平成 21 年 2 月 26 日死去



総会報告

NPO 法人鴻臚館・

福岡城跡歴史・観光・市民の会
第 5 回通常総会報告

日時 平成 21 年 6 月 8 日(月)

14 時～15 時 30 分

場所 読売新聞西部本社 1F

よみうりプラザ

審議事項

第一号議案

平成 20 年度事業報告
及び収支決算に関する件

第二号議案

平成 21 年度事業計画
及び収支予算に関する件

第三号議案

平成 21 年 6 月 30 日役員任期
満了につき役員選任の件

5 月 26 日(火)の理事会を経て、
総会が右記の通り開催されました。

役員選任につきましては今期は

9 名で再任・承認されました。

またその他の項目で

・グリーンパスの有効性と観
光案内を考える

・藤香会・黒田奨学会からの報告

・本丸御殿や櫓から作って

いく方法も考えられる

など、活発な意見が出されました。

今後の運営に役立てていき

たいと思います。

福岡城探訪

学問好きの文化人

四代黒田綱政

藤 金之助

藩主とはいえ隠居光之の影響のもとで藩政を進めざるを得なかった綱政の苦労は長かったが、厳しい藩の財政のなか勤勉な農民を表彰したり、年貢徴収の役人には厳しい姿勢で臨むなどこまかい善政を心掛けた。

また財政建て直しのため、光之と相談、幕府の許しを得て藩札の発行に踏みきるが、それも数年後には札銀と正銀の取り替えが滞り商人の協力が得られず米酒などの高騰を招き失敗に終わる。

この時期、かねてから反目していた光之側近と綱政側近との利害が対立、ついには光之、綱政親子の不仲までに発展する。

この事態を憂慮しながら光之が死去すると綱政は直ちに藩政改革に着手、藩札発行失敗の責任者である重役らの処罰を行い、さらに立花一門を含む光之側近派の肅正を断行した。宝永五年七月には幽閉中の兄、綱之が急死する。

光之の側用人であった立花実山は光之の死後、剃髪して自身が創建していた東林寺(博多駅前)に謹慎していたが飯塚の鯉田村に蟄居、

入牢の後、処刑された。

江戸時代の領民にとって藩とは国と同じであった。そもそも「藩」とは垣根とか境界を示す意味であり、各藩は隣藩との境界の守りを固くしたが紛争も度々起こった。

綱政治世では筑前、肥前の国境である脊振山の領有権争いが有名で、地元では解決がつかず、とうとう幕府が乗り出し、佐賀藩の地図の方が脊振山に詳しかったので福岡藩が敗訴するという事件があった。

日本各地でこのような領土をめぐる紛争が絶えず元禄十年、幕府は各藩に詳細な地図を作製、提出するよう命じた。福岡藩でも四年がかりで正確な地図を完成したがこの「元禄絵図」により隣藩との協議を重ねて国境を明確にすることができた。

綱政の治世は元禄元年(一六八八年)から正徳元年(一七二一年)までの二四年間であったがその大半は元禄の一六年間である。元禄時代とは將軍綱吉のもと文字、美術、演劇などが絢爛と開花した時期である。

綱政は藩政改革、国境紛争、自然災害、朝鮮通信使の対応など数々の苦難に堪えながらも生来の学問好きで文化人であった。絵を狩野永真について学び、荒戸の東照官、香椎、宇美、太宰府、警固、住吉などの神社に自筆の絵馬を寄進している。

また学者を育て優遇したが、その庇護のもと貝原益軒なども自由にその才能を発揮することができた。江戸期の農学を代表する宮崎安貞もそのひとり、著書である「農業全書」は当時のベストセラーになり、水戸光圀が「一日も手離なせない書である」と激賞しているほどである。

正徳元年、綱政、五三歳で死去、菩提寺の崇福寺に葬られる。昭和二年五月、黒田家墓所の改葬が行われたが、綱政の墓の中からミイラになった遺体が出てきた。福岡藩は長崎警備の役目から海外の文物に触れる機会も多く、すでにエジプトのミイラも入手、製法の研究も行っていた。綱政の死で藩内が動揺するのを防ぐため、その死を暫らく秘す必要があり、藩医の鷹取養巴らの手で腐敗防止の処置が施されていたものである。

遺体は九大医学部の北条教授によつて調査されたが豪華な絹と麻の衣装もそのままマゲをつけ、まつ毛、ひげも残つて手足の筋肉も自由に動いたという。福岡藩の高度な医療を身をもって示した綱政の遺体は丁寧に墓に戻され永遠の眠りについていた。

表紙

福岡城西三の丸、御下屋敷



明治初期に撮影された御下屋敷の表門と堀 (福岡市博物館蔵)

慶長六年(一六〇二)の福岡城築城開始以降、藩祖長政は本丸に「御館」を置きました。二代目忠之は二の丸西の石垣沿いに、三代目光之は寛文十一年(一六七二)頃西三の丸に「御館」を移し、やがて藩の領民と親しく交流する場として、今云う「どんたく」演舞台の原形

となった能舞台を造りました。

以後、明治維新まで歴代藩主の「御館」として続いてきました。

【御下屋敷表】

現在の舞鶴中学校

福岡藩のさまざまな役所や大広間がありました。屋敷内には能舞台もありました。

明治初期、福岡県庁の庁舎として利用されていました。

【御下屋敷裏】

現在の舞鶴公園西側広場

黒田藩主三代目光之以降の藩主私邸が置かれ「御館」「御下屋敷」と呼ばれました。

御茶屋・御庭・池もありました。

お知らせ

平成二十二年

福岡城観月の宴

月の出 十七時四十一分

◆とき

平成二十一年十月四日(日)
受付十六時 開演十六時半
〈満月当夜〉 小雨決行

◆ところ

舞鶴公園西広場

(福岡市中央区城内二)
最寄りのバス停・西公園、荒戸二丁目
最寄りの地下鉄・大濠公園

◆観月弁当券

三千円(座席つき)
(弁当、お土産、お神酒、プログラム付)
会場内には野点茶(抹茶、煎茶)、
各種バザー(月見弁当、飲みもの、
お菓子他)、休憩コーナーを準備
しています。

※荒天中止の場合

観月弁当券ご購入の方は、当日十六時より二十時まで、当会場にて弁当、お菓子をお渡しします。

◆主催

NPO法人 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会
読売新聞西部本社

【行事に関するお問い合わせ】

NPO法人 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会 事務局
福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7F
電話・092(716)8238
ファックス・092(716)8254

また!! 福岡城どんたく演舞台でお会いしましょう



(フラ・カ・マヒナ・ポーマイカイ)



(博多松離子)

福岡城どんたく演舞台(福岡城・市民の会、読売新聞西部本社主催)も五年目を迎えました。

五月三日、九時四十分、舞台開き神事を光雲神社宮司石津様により、おごそかに執り行われ、どんたくスタートです。

今年は宮崎市から初参加のまつりえれこっちゃ・みやぎきどんたく隊、宮崎サンシャインレディとおどり隊の皆さんが大いに盛り上げてくれました。

また、宮崎観光協会による物産展では炭火焼きの地どり、マンゴーのキャラメルなどが販売され人気を呼んでおりました。

「筑前今様」「日韓親善交流の舞踊」連続六十四回皆勤賞を誇る「コスモスじろ長どんたく隊」「中津黒田武士の会どんたく隊」など三十八団体約三〇〇人が出演しました。

五月四日は福岡城の演舞台ならではの出しもの「黒田藩伝古武道」「藤堂輝明民謡花舞台」等、雨にもめげず皆様のどんたく出演への情熱に感激いたしました。

この演舞台におこし下さった方々は三日・三三〇〇人、四日・二二〇〇人、総勢五五〇〇人の皆様です。

博多祝いうた手一本でどんたくは幕を閉じました。

新規会員名簿 (平成21年6月12日現在)

正会員(個人)

棚町 俊二 中野 芳子

一般会員(個人)

前樋小内 田口森田 柳森満
田雅照 子記春 澤生邦
子記春 俊和 子恵子

一般会員(団体)

警固神社 志賀島神社
三角堂鍼灸院 長唄鳶の会

お詫び
21号にて記載いたしました新会員のお名前が間違っておりまして、訂正してお詫び申し上げます。
古馬安馬様 ↓ 古場安馬様

編集後記

今年度の理事会(五月二十六日)総会(六月八日)も無事終了いたしました。五年目を迎えた市民の会は、より一層のステップアップをめざすための事業等に真剣に取り組んでまいります。そのためにも会員の皆様方のご協力、ご指導がぜひとも必要でございます。市民の会はこうあるべきだなどのお声をお聴かせ下さい。お待ちしております。

編集・発行:

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所:

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238

FAX:092-716-8254

HPアドレス:

<http://fukuokajokorokan.nngo.jp/>

E-mail:

fukuokajo@tos.bbq.jp

デザイン・印刷:(株)セブンプリンティング